

1. スケジュール

(1) 学研都市見学ツアー (オプション)

参加者 (敬称略) : 桂、山川、長舟、伊東、宇治川 計 5 名

9 : 30 私のごと館

10 : 30 ATR 国際電子技術研究所

11 : 40 関西文化学術研究都市推進機構 (学研都市の説明)

(2) ユビキタスホーム見学

参加者 (敬称略) : 朝山、松永、坂東、門内、佐脇、長舟、

森川 (代理 : 今井)、伊東、桂、小松、山川、宇治川 計 12 名

13 : 00 ~ 14 : 30 見学および意見交換

京都大学社会情報学専攻 田中克巳教授 に参加いただいた。

2. ユビキタスホーム概要

(<http://www.khn-openlab.jp/shisetsu/ubiquitous.html>より)

近年、家庭においてブロードバンド環境が普及しホームのネットワーク化が進むとともに、ネットワーク家電の市場も拡大し、家庭への情報通信技術の導入が急速に進んでいます。そのような状況に伴い、家庭において様々な年齢層を対象にして、高度な安全や快適が提供できるサービスを実現するための研究開発が求められ、開発される技術を実生活に近い環境で検証できるテストベッドを準備して、素早い社会の変化に呼応した技術開発を行うことが必要とされています。

NICT は、今後急速に進んでいく家庭への情報通信技術の導入を背景とし、ヒューマンコミュニケーション技術の研究開発を推進するため、「ユビキタスホーム」と呼ばれる家庭生活における実証実験を行うテストベッドを構築しました。ユビキタスホームには様々な機器やセンサが備えられ、開発技術を実生活で試験することにより検証データを取得することができ、社会ニーズに呼応した快適で安全・安心な情報通信サービスを提供するための技術開発に寄与していきます。

1. 研究概要

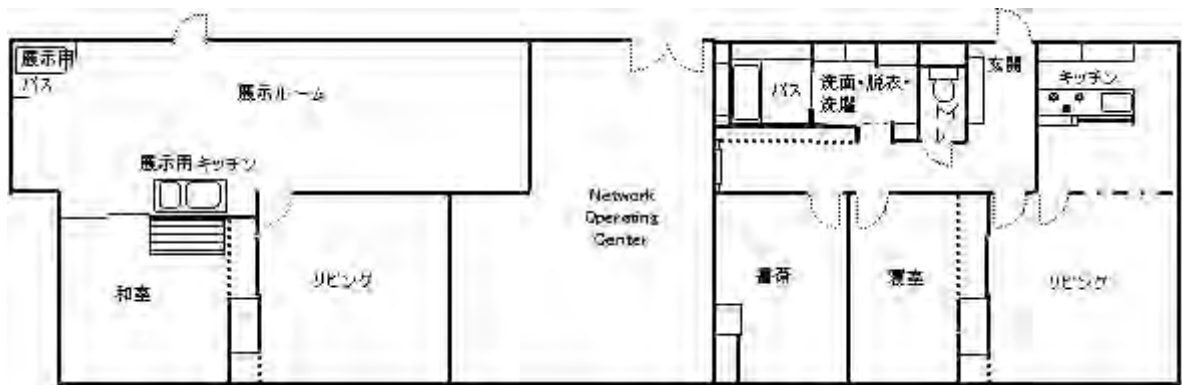
- ユビキタスネットワーク環境におけるアプライアンス同士の連携で、ユーザの振る舞いや状況等を理解し、動的に個人に適応した情報通信サービスを構築。
- 履歴情報や知識ベースを利用し、複雑な操作をしなくとも様々なユーザの状況や嗜好に適応したサービスにアクセスできる、ユニバーサルインタフェースを開発。
- ネットワーク接続アプライアンスを連携させたサービスを実現する通信ミドルウェアを開発。

- 実生活環境での実証実験による検証を行い、実用性を検証。



2. ユビキタスホームのレイアウト

- ネットワーク化されたカメラ、マイクなどを設置。
- コンテンツを提示するためのディスプレイ、スピーカを設置。
- 人やモノの位置検出を行うための電子タグ設備、床圧力センサなどを設置。

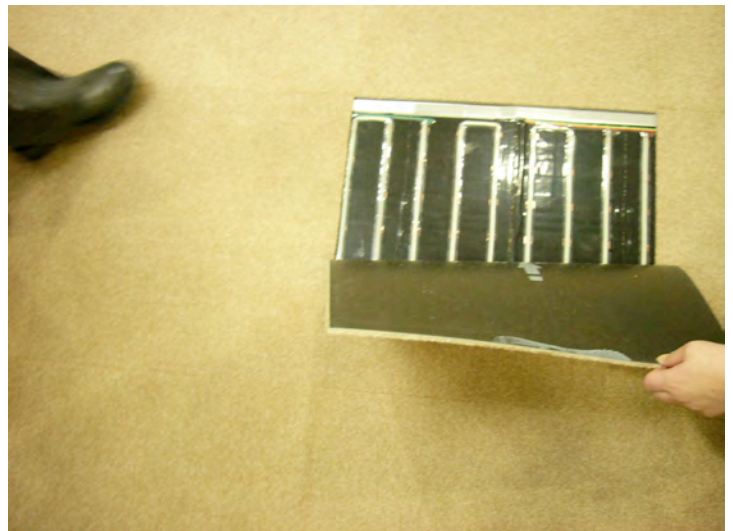


3. 撮影した写真

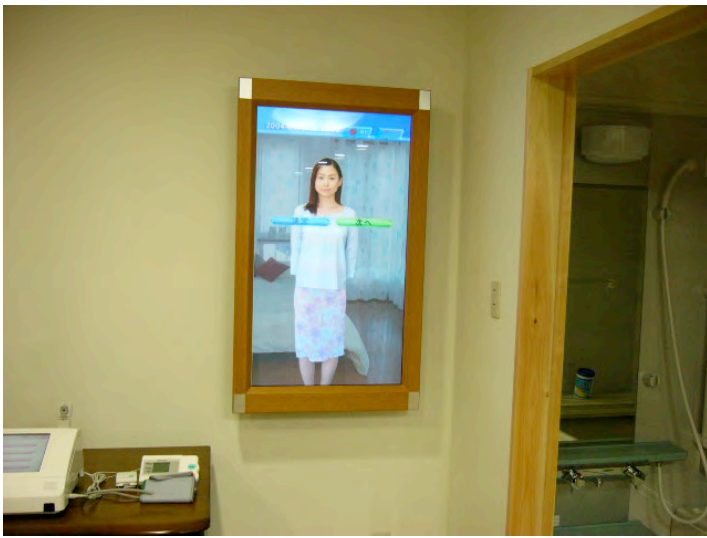
(2004.11.12 by 今井博さん)



床には位置（圧力）センサーを設置



同左 床センサー



鏡とディスプレイによる衣装の選択サービス



同左 衣服はICタグで管理



リビングルーム



同左 ロボットと共存



キッチン 食堂のテーブル側から



プロジェクターで調理法を参照できる



和室 モニター画像で他の部屋を見られる



浴室 雰囲気を変えられる（照明の色や音楽）

寝室 同じ仕掛けがある。天井4隅にはモニターカメラ



説明された 京都大学の田中教授（情報社会学専攻）